

「戦争法案は絶対反対」

9/12
五五五

阻止へ声あげ続ける 各地で行動

1200人が唱和

「安倍内閣の暴走を止めよう」「戦争法案の強行採決、絶対反対」。10日夜、名古屋市中区の繁華街に、



「強行採決反対」のボードを掲げる参加者ら＝10日、名古屋市中区

パレードする1200人を超える市民の声が響きました。中谷雄二弁護士らがよびかけた、戦争法案阻止と沖縄の基地撤去と建設中止を求める市民団体の主催です。

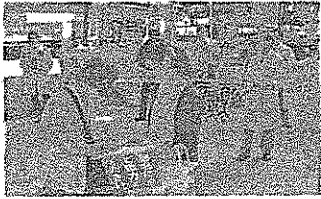
集会では、青年、高た。校生、命どう宝の会、安保関連法案に反対するママの会の代表らがリレートーク。

SEALEDs 東海の海老原陽奈さん（大学2年）は、国民のためとあって欠陥だらけの法案をつくらないでほしいと訴え、「絶対にあきらめないで、声をあげ続けましょう」と呼びかけました。女子高生（9年）は、夏休みに広島島の平和の火を全国に自転車で運ぶ「ピースリレー」に参加した経験を報告し、「誰かの犠牲のうえに成り立つ平和はありません。戦争体験者から受け取ったバトンを未来に渡すために、私も語り部になって行動したい」と話しました。

中谷弁護士は、「国民の声を聞かない姿勢はまさに独裁政治。日中本中で街頭宣伝、デモを繰り返し暴挙をとめよう」と訴えました。会社帰りに参加した堀洋介さん（40）は「人の意見を聞こうともしない政治はダメ」と語りました。

白衣汚さぬ

愛知県保険医協会、愛知県民主医療機関連連会（愛知民医連）、愛知県医療介護福祉労働組合連合会（愛知県医組）が参加した。



戦争法案反対の署名を訴える医師、看護師ら＝10日、名古屋市中区

愛知県の荻野高敏理事長、民医連の早川純午会長、医労連の林信悟書記長らが次々とマイクを持ち「人の命を守る医師として、人の命を奪う戦争に断固反対する。戦争する国づくりをめざす戦争法案廃止法案に」「アジア・太平洋戦争で3万人以上の医師・看護師が動員され戦地で

多数が亡くなった。二度と繰り返してはならない」「再び白衣を戦場の血で汚したくない」と述べ、署名の協力を呼びかけました。白神澄江さん（54）は「めいが日赤病院の看護師。東日本大震災の被災地支援に派遣されたが『戦場に行くのだけは怖くて嫌』と言っている」と話し署名しました。

「署名する」と声をかけてきた毛利勇さん（65）は「安倍首相は無投票で自民党総裁に再選された。3年やらせたら日本の政治はむちゃくちゃになる。早く退陣させるようがんばってくれ」と言いました。

安保法案成立断念を意見書を可決
新潟・阿賀野市議会
新潟県阿賀野市議会は8日、日本共産党な

どの議員発議による「安保関連法案の今国会成立断念を求める意見書」を可決しました。6月議会と同様、賛成・反対が9対9の同数となり、今回は石川恒夫議長の裁決により可決しました。石川議長は、賛成に変わった理由として「国民の理解」と述べました。

解と支持が大前提。参議院審議に注目してきたが、法的安定性の担保をはじめ、正直な気持ち、失望を禁じ得ない」と述べました。